

記入例(かがやき)

記入の際は、ボールペン又は万年筆で記入してください。
パソコンで入力する場合は、文字色は黒で統一してください。
文字の書体や文章表現等は問いません。

令和7年度 きらめき補助金交付事業企画書

令和〇〇年 月□□日

綾瀬市長

所在地 綾瀬市早川550番地
名称 綾瀬いきいき介護予防の会
代表者職 会長
氏名 綾瀬 花子

補助事業の区分	
ひかり	・ かがやき
事業名称	
事業の内容や目的が伝わるように、分かりやすい名称で 介護予防リーダー養成講座・フォローアップ講座	
のうち補助金交付を受けたい額	
事業費総額	補助金交付希望額
収支予算書の合計額	のうち の割 200千円 (事業費総額の 39.6 %)
補助金の使途	
講師謝礼	
収支予算書の補助金充当科目と合うように	
現状の課題と事業目的	
どのような理由で、どのような解決を目指すのか	
日本は、諸外国に例をみないスピードで高齢化が進行しており、65歳以上の人口は、3,000万人を超えており（国民の約4人に1人）、2042年の約3,900万人でピークを迎え、その後も、75歳以上の人口割合は増加し続けることが予想されています。このような状況の中、団塊の世代（約800万人）が75歳以上となる2025年以降は、国民の医療や介護の需要が、さらに増加することが見込まれています。 綾瀬市においても、2025年には65歳以上の人口割合を示す高齢化率が27.2%となり、要支援・要介護認定者数は4,983人に上ると予想されています。 このため、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制が求められており、その地域における中心となる存在「介護予防リーダー」を養成することと、既に地域で活動している昨年度までの講座受講生が、より一層の活躍ができるようフォローアップすることがこの事業の目的です。また、介護予防リーダーの活動実績を養成講座にフィードバックすることで、より実践的な講座内容にしていきます。	

事業の効果

- ・ 参加者が受け手から担い手になり、担い手自身の介護予防、健康づくりにつながっていく。
- ・ 市民ならではのネットワークや発想を活かし、地域の身近な場所での活動が増えていく。
- ・ 既に地域で活動している介護予防リーダーの課題解決力を上げることで、地域力の底上げを図る。
- ・ 将来的には、市民、行政、関係機関間で、地域課題の共有や取り組みの検討を行う関係が期待される。

事業内容

実施する事業内容を記入。（日時、場所、参加費、定員など）

「介護予防リーダー養成講座」

実施時期：北部地域と南部地域に分け、それぞれ月１回、計１２回を予定

対 象：介護予防を地域で推進するリーダーを目指す方

場 所：〇〇地区センター、 会館等

受講料：３，０００円

定 員：５０名×２名（北部地域と南部地域）

内 容：専門家の講義によって介護予防についての知識を得たうえで、実習を通じて地域の実態を知り、修了後に実際に活動するイメージを持ってもらう。テーマは栄養、口腔ケア、体操、傾聴など。また、昨年度受講生から地域における活動の話やアドバイスをしてもらう。

「介護予防リーダーフォローアップ講座」

実施時期：隔月１回、年６回を予定

対 象：昨年度までの介護予防リーダー養成講座受講生

場 所：中央公民館、講習室

受講料：１，５００円

定 員：３０名～５０名（昨年度受講生の中の希望者）

内 容：取り組んでいる地域課題や介護予防リーダーが抱える問題をワークショップ形式を用いて解決を図る。また、その解決のために必要が生じた専門知識についての講義やアドバイスを行う。

前年度にきらめき補助金の支給を受け実施した事業は、前年度に比べ発展させ、活動を軌道に乗せるために実施する内容を記入

前年度と比較し、拡充・縮小した内容（継続事業のみ記入）

「介護予防リーダー養成講座」については、前年度に実習したワークショップが実習の振り返りも兼ねることができ好評であったため、講義を1回減らしワークショップを1回増やした。また、終了後の活動イメージをより明確にもってもらうために、昨年度の受講生から地域における活動の話やアドバイスをもらえる機会を設けた。

今年度から実施する「介護予防リーダーフォローアップ講座」は、昨年度受講生が実際に地域で活動を始めて抱えた問題や、不安を解消し、より一層の活躍ができるよう企画した。

また、今年度から団体ホームページを立ち上げ、情報発信力の向上を図る。

事業実施スケジュール

年月日	内 容
4月〇〇日	講義（北部、南部）
5月〇〇日	講義（北部、南部）、ワークショップA（フォローアップ）
6月〇〇日	講義（北部、南部）
7月〇〇日	実習（北部、南部）、講義A（フォローアップ）
8月〇〇日	ワークショップ（北部、南部）
9月〇〇日	実習（北部、南部）、ワークショップB（フォローアップ）
10月〇〇日	ワークショップ（北部、南部）
11月〇〇日	実習（北部、南部）、講義B（フォローアップ）
12月〇〇日	ワークショップ（北部、南部）
1月〇〇日	実習（北部、南部）、ワークショップC（フォローアップ）
2月〇〇日	実習（北部、南部）
3月〇〇日	講義（北部、南部）、講義C（フォローアップ）

事業実施体制

企画は外部専門家と相談しながら、会員が行う。

事業実施にあたっての、団体の組織体制、PR方法などを記入。

当日は会員3名が受付等事務を行い、講師として外部専門家1名を招き実施。

チラシ配架、広報あやせ、SNS サイトにて事業周知。ケーブルテレビ・FM ラジオ・新聞・タウン誌等に取材依頼。

企画事業を今後どのように発展させていくのか、また補助金交付終了後にどのように事業を継続していくかについて。5年後、10年後の展望を記入。

今後の展望	
5 年後	・ 行政や自治会等と協力し、地域の現状についての意見交換を行う機会をつくる。 ・ 専門的なアドバイザーを意見交換の場に招き、話し合いや連携が進みやすくなる方法を模索していく。 ・ 本講座を受講した、リーダーとして活躍する人材を講師として招いた講座の実施や受講者向けの講座を実施していく。 ・ 介護予防リーダー養成の実績ができ、本講座の有用性が認められたら、受益者負担の原則から受講料の増に取り組んでいく。
10 年後	・ 本講座やその他事業を通じて、本会の目的を理解してもらい、会員数増や、協賛者数を増やし、自立した団体として取組んでいく。 ・ 行政の市民協働事業制度や民間の助成金制度なども活用し、介護予防リーダーを確立させるとともに、まちづくり全体に関わっていけるような事業を展開していく。
添付資料 1 収支予算書 2 資金計画書 3 団体の概要書 4 団体の規約、会則又は定款 5 役員名簿	

収支予算書

事業名称を記入。（企画書と同じ）

事業名称 介護予防リーダー養成講座・フォローアップ講座

会費、負担金、事業収入、助成金・補助金、寄付金など事業に係る収入を全て記入。

金額は千円単位で、千円未満を四捨五入。

1 収入の部

（単位 千円）

科目	予算額	説明
会費	25	5,000 円 × 5 名
講座受講料	270	3,000 円 × 80 名、1,500 円 × 20 名
寄附・協賛金	10	協賛金 5,000 円 × 2 社
補助金	200	きらめき補助金（かがやき）
収入合計（A）	505	

内容及び積算根拠を記入。

2 支出の部

応募の手引き「対象となる経費の例」参照

（単位 千円）

科目	予算額	補助金 充当予定額	説明
講師謝礼	252	150	講義・実習講師謝礼 5,000 円 × 3 時間 × 12 回 ワークショップ指導者謝礼 8,000 円 × 9 回
会場費	40	40	250 円（減免適用）× 4 時間 × 2 部屋 × 20 回 （講義・ワークショップ）
消耗品費	87		実習用消耗品（介護用品等） 5,000 円 × 12 回 ワークショップ消耗品 3,000 円 × 9 回
印刷費	50	10	看板 5,000 円 × 2、チラシ 20,000 円（500 部）、ポスター20,000 円（200 部）、 参加者用レジュメ等 5,000 円
通信費	56		事業協力依頼、周知等送料（関係団体、企業用）84 円 × 55 通 × 12 回
飲食費	20		講師、参加者用お茶代
支出合計（B）	505	200	

収入（A）－支出（B）＝0 円

収入合計と支出合計が同じ金額

内容及び単価や数量等内訳、積算根拠を必ず記入。

団体としての5年後、10年後の資金計画を記入。
補助金終了後も団体が自立して活動を継続する資金計画をたてているか確認する資料になります。あくまで計画ですが、必ず自主財源を確保する計画をたててください。

資金計画書

	科目	収入	科目	支出
5 年 後	会費	1 5 0 千円	講師謝礼	3 5 0 千円
	寄付・協賛	5 0 千円	会場費	6 0 千円
	講座受講料	5 0 0 千円	消耗品	1 0 0 千円
		千円	印刷費	7 0 千円
		千円	通信費	6 0 千円
		千円	飲食費	6 0 千円
	合計	7 0 0 千円		7 0 0 千円
	活動内容	今回申請した介護予防リーダー養成講座の事業を継続しながら、本講座を受講し、実際にリーダーとして活動をはじめた方々を対象とした上級者向けの講座等を開始する。		
1 0 年 後	会費	2 0 0 千円	会場費	1 5 千円
	寄付・協賛	1 5 0 千円	消耗品費	5 0 千円
	講座受講料	1 5 0 千円	飲食費	5 0 千円
	移送サービス	3 0 0 千円	人件費	1 , 5 6 0 千円
	在宅介護	8 7 5 千円		千円
		千円		千円
	合計	1 , 6 7 5 千円		1 , 6 7 5 千円
	活動内容	・団体をNPO法人化する。 ・本事業の介護予防だけではなく、移送サービス事業や在宅介護事業などを展開し、介護給付事業にも取り組む。		

団 体 概 要

団体名称	綾瀬いきいき介護予防の会		法人格を有している団体については、その種類（特定非営利活動法人等）も記入。	
所在地 (運営拠点)	〒	252-1192	団体の事務所となる場所を記入。	
	住所	綾瀬市早川550番地		
	TEL	0467-70-1111	FAX	0467-70-5701
	Eメール	ayase@oxox.jp		
	ホームページ	http://www.city.ayase		事業の内容について把握し、速やかに連絡が取れる方を記入。
連絡担当者 及び連絡先	担当者氏名	綾瀬 太郎 (役職 理事)		
	TEL	0467-70-1111	FAX	0467-70-5701
	Eメール	ayase@oxox.jp		
	〒	252-1192	活動を開始した年月日を記入。	
	郵便物送付先住所	綾瀬市早川550番地		
設立年月	〇〇〇〇年	月〇〇日	(法人格取得年月 年 月)	
団体設立の目的と経緯を記入。	住み慣れた地域で、いきいきとした自分らしい暮らしを人生の最期まで続けられる方を増やすことを目的に会を設立。介護予防についての活動を普及啓発することで健康寿命を延ばし、認知症理解のための活動を行うことで介護者の負担を地域全体の問題として捉え、地域における支援体制の整備を図ります。			
設立目的・経緯				
主な活動内容	・介護予防リーダー養成講座の開催 ・認知症理解のための研修会・家族会・相談会の開催 ・地域におけるSOSネットワーク体制の整備 ・地域におけるネットワーク会議の開催 ・見守り声かけ模擬訓練の実施 ・成年後見に関する理解・支援を図る活動			これまでの団体の主な活動を記
	主な活動場所	市民活動センターあやせ、中央公民館、 〇〇市区センター、自治会館		
活動実績 (過去2年以内の主な活動実績)	「介護予防リーダー養成講座」 受講者数：50名			
	「認知症理解のための研修会・家族会・相談会」 5回実施 参加者数：計98名			
	「地域におけるネットワーク会議の開催」 1回実施 (SOS ネットワーク			

過去2年以内の主な活動実績について。

